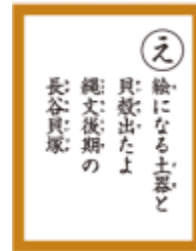


振興部の 知っとこ！神美

知っておいてほしい神美を紹介します。

【長谷編 I】



長谷の地名

北の支谷を篠谷と呼び、南の支谷には大和・長谷寺の観音を勧請、これが当地名の由来と伝えるが、南の支谷を本来、長谷と呼んだ由縁で長谷観音を招いたのかも知れない。篠谷には臨濟宗大安寺跡があり、但馬山名氏家臣団の一人がこの地を固めたことは、森尾の盛重寺、倉見の宝勝寺との関連にならって推定できる。「長谷」は長い谷である。

(豊岡の地名 山口久喜著より)

神美の口伝えあれこれ

一、長谷の火事

長谷の弁天様は、大安寺のお庭の地神様として祭られた。

大昔のある日、萬頭山やすみ場尾根にたった女の人が立石村に向かって「長谷がやける、長谷がやける」と大声でやめいた。

このただならないさげび声を聞いた立石の村人は、これは大変なことと大急ぎ長谷村に駆けつけてみれば、ふだんと変らない様子に不思議なこともあるものと、がやがや話しあいながら長谷峠まであともどりした時、突然大安寺門前付近より火の手があがった。これはどうした。どうしたこととようやく火は消しとめたものの、不幸にも農家六軒が焼失した。

村の人々は、この不思議な女のわめき声はきっと弁天様のお告げに相違ない。きっとそうだ。弁天様の他に誰があらうと加護の厚さに感謝し深く帰依したそう。

「豊岡民話 耳ぶくろ(昭和 50 年発行)」より

二、円通寺の火事

ある晩のことであった。大安寺の和尚が夜中に小僧をたたきおこし、弁天様祠堂の岩に池の水をかけてくれといいつけた。小僧はこんな夜中に岩に水をかけなどと何をあほうなことをいうものだと思ったが、不承不承桶を手にして、あほうの様にしながら水をかけた。

翌朝、須谷の円通寺から村人三人大安寺に使いがみえた。使は昨晚円通寺が火事で焼けたが、格別大安寺のお力をいただき、和尚始めだん家一同大変喜び感謝していると厚く礼をのべて帰っていった。

小僧は、これを聞いて昨晚のことを思いおこしその不思議さに驚き、弁天様の尊信の念を深めていったという。

「豊岡民話 耳ぶくろ(昭和 50 年発行)」より